

特定非営利活動法人サロン 2002

2018 年度 活動報告書



はじめに

2014年5月に特定非営利活動法人とした再出発したサロン2002の、平成最後の活動報告書ができました。この一年、多様な活動を展開することができました。そしていずれの活動も、わたしたちの“志”の実現につながる大きな可能性と、いくつかの課題を抱えていることがわかります。

わたしたちの活動の中心は「月例会」です。1997年度から数えはじめて2019年3月で通算271回となりました。いまではサッカーだけでなく、スポーツを取り巻く様々な話題を取り上げています。その内容はまとまった文書の形で整理し、ホームページ上で公開しています。今後も月例会は、サロンの活動の軸となるでしょう。だからこそ、月例会をもっと充実したものにしていきたいと考えます。たとえば告知方法の改善。最近はfacebookで案内をみて参加する方も増えてきました。会員・メンバーへのダイレクトメール、ホームページへの案内掲載だけでなく、より積極的な告知ができそうです。テーマに関心を持つ方が気軽に参加できるムード作りも大切です。閉鎖的なイメージを与えかねない「月例会」の名称変更も検討しています。また月例会報告も、制作に費やす労力を考えると音声や映像のままでよいのではという意見もあります。

年に一度の「公開シンポジウム」はサロンが続けてきた大きな行事です。2018年度に取り上げた「部活動を語ろう！」はタイムリーかつ重要なテーマであり、充実したシンポジウムとなりました。桐陰会館での運営にも慣れてきました。しかし告知は依然として不十分です。もっと多くの方に来てもらいたいし、多様な方々と議論したいと考えます。

集客という点では、初めて開催した「Non-Border ボッチャ交流会」は大成功でした。桐陰会館に150名もの多種多様な方々が集い、交流できたことは大きな成果です。口コミやfacebookを通しての告知が効果的でした。SFT事業として取り組めたことも今後につながるものでした。こうした活動で得られた絆を大切にしていきたいと思います。

totoの助成を得て広報誌『游 ASOBI』第2号を作成しました。今回は二つのメッセージ、「オリンピズムを教育に」と「ユース年代にリーグ戦を」を掲載しました。いずれのメッセージもNPOとしての事業に反映しています。前者は「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム」への参画などで、2020年以降につなげることを目指しています。後者は「DUOリーグ事務局業務」の受託に加え、toto助成を得て主催した「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」があります。はじめて長野県での開催となった第3回大会も充実した大会となり、メッセージをしっかりと伝えることができました。今後の発展が期待されます。しかし事業単体としては赤字です。協賛金を得る努力をしなくてはなりません。

いまNPOサロンの財政状況は逼迫しています。良いことに取り組むためにNPO法人化しましたが、形を整え、より良いことに取り組む過程で無理や無駄が生じているのかもしれません。プロ意識を持ったボランティアと、ボランティア精神を持ったプロが、自覚と責任を持って一つひとつのこと取り組む姿勢が不可欠です。そして持続可能で発展性のある組織づくり、事業展開が必要です。

このような議論をいまは主に理事会内で進めていますが、本来はNPO会員全体すべきでしょう。またスポネットメンバーからもご意見をいただくことで視野が広がりますし、会員やメンバー以外の方々（潜在的な“未会員”）からもご意見やご感想をいただければと思います。そして“志”に賛同してもらえるのなら、わたしたちのネットワークの一員となってほしいと願います。

「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」に取り組む“同志”的輪を広げながら、令和の時代に臨みたいと思います。

2019（令和元）年5月
特定非営利活動法人サロン2002
理事長 中塚義実

目 次

はじめに 1

NPO法人サロン2002理事長 中塚義実

目 次 2

【調査研究・情報提供・普及啓蒙事業】

1. 月例会活動報告 3

2. 公開シンポジウム 11

3. 広報紙「游」第2号の作成 12

【支援・受託・派遣事業】

4. 「DUO リーグ」事務局業務受託 13

【イベント開催事業】

5. 第3回 フットサルリーグチャンピオンズカップ 14

6. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2018 17

7. 第1回 Non-Border ボッチャ交流会 19

8. リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト 21

【国際交流事業】

9. Sport for Tomorrow 事業への参加 21

【人的ネットワーク管理運営事業】

10. 事務局報告 22

1. 月例会活動報告

《2018年4月（通算260回）月例会報告》

【日 時】2018年4月26日（木）19：05～21：10

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室

【テー マ】高校サッカーハイレベルをめぐって一部活動のあり方を考える

【演 著】中塚義実（筑波大学附属高校／『高校サッカーハイレベル』編集委員／全国高体連活性化委員長）

【参加者（会員・メンバ）10名】

岸卓臣（日本スポーツ振興センター）、北原由（都立武蔵高校）、小池靖（在さいたま市／サッカースポーツ少年団コーチ）、小山基彰（ヒーローインタビュー）、斎藤芳（桜丘高校）、嶋崎雅規（国際武道大学）、竹中茂雄（東海道品川宿FC）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷区サッカー協会）、吉原尊男

【参加者（未会員）4名】

守屋佐栄、渡邊明志（ろう学校）、国島栄市、ほか1名

【報告書作成者】中塚義実

【概要】

前半は、「高校サッカーハイレベル」の流れがざっくりと紹介された。

その後、現在発刊準備中の『高校サッカーハイレベル』の編集方針と内容が紹介された。高体連では、今まで40年誌、60年誌、90年誌と生死を編纂してきて、その集大成となるのが『高校サッカーハイレベル』である。

最後に、これから部活動のあり方について語られた。具体的には、1. 目指すべき部活動の姿を示す。1) 安全で安心な部活動を目指して、2) 多様な価値観の受け皿となる部活動を目指して、3) 自主性や創造性を育む部活動を目指して、4) 学校生活を構成する「学校文化」として。

2. スポーツと教育のあるべき姿を示す。1) 勝利至上主義の弊害とゆたかなスポーツ文化の享受、
2) オリンピック教育の可能性と実践事例。

3. 学校教育における部活動の位置づけと、その解決策を示す

さらに、筑波大学附属高校蹴球部の事例が紹介された。蹴球部は、歴史と伝統ある11人制のサッカーハイレベル部。レベル的にはたいしたことないけどそれなりに一所懸命取り組んでいる。また、あるとき女子部員が入部し、今では部員が一番多い女子部。フットサル部も、バリバリの競技志向はいやだけどボールを蹴るのは好きという生徒が作った部門。これら3部門（チーム）が一つのクラブを構成している。夏合宿は3部門合同で行い、3部門合同でクラブとしての取り組みとして、年2回の昼夜休みフットサル大会が挙げられる。「サッカーハイレベル部は幅広くいろんな人を受け入れるべきだ」という主張のもと、「おもしろい」取り組みが続けられている

《2018年5月（通算261回）月例会報告》

日 時】 2018年5月22日（火）19：10～21：00

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室

【テー マ】ワールドカップのグループリーグからフェアネスを考える

【演 著】井上俊也（大妻女子大学）

【参加者（会員・メンバ）7名】

井上俊也（大妻女子大学）、大河原誠二（桐窓サッカー倶楽部）、笹原勉（日揮）、関秀忠（弁護士）、

中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷区サッカー協会）、吉原尊男

【参加者（未会員）4名】守屋佐栄、佐藤雄大（桐窓サッカー倶楽部）、国島栄市、霧島剛

【概要】

FIFA ワールドカップのグループリーグは 1998 年大会から方式が変わりました。それまでは基本的に、シード国は特定の会場で試合を行い、各グループリーグは特定の会場で行われていましたが、1998 年大会以降、各チームは所属するグループに関係なく、ランダムな会場で試合をするようになりました。開催都市のファンにとってはバラエティに富んだチームの試合を見るという楽しみができた反面、各チームは多くの移動を伴うことになりました。

日本はサンクスでコロンビア戦、エカテリンブルクでセネガル戦、ボルゴグラードでポーランド戦を戦い、首位突破の場合はモスクワ（スパルタク）、2 位通過の場合はニジニ・ノブゴロドでノックアウトステージの初戦を迎えます。この間の移動距離は首位通過の場合 3,335 キロ、2 位通過の場合 3,285 キロです。この距離はロシアという広大な国での大会において長いのでしょうか、短いのでしょうか。そして移動距離の一番長い国と短い国の格差は 4 倍近くになります。

サッカーのワールドカップだけではなく、来年日本で行われるラグビーワールドカップの事例とも比較しながら、メガスポーツイベントにおけるフェアネスとは何なのかを考えた。

《2018 年 6 月度月例会は総会終了後、意見交換会として実施》

《2018 年 7 月（通算 263 回）月例会報告》

【日 時】2018 年 7 月 26 日（木）19：00～21：30

【会 場】セネガル料理屋「Cafe Bar Blue Baobab」（港区麻布台 2-2-12 三貴ビル 2F）

日比谷線神谷町駅より徒歩 6 分／大江戸線赤羽橋駅より徒歩 6 分／日比谷線六本木駅から徒歩 15 分

【テーマ】セネガル料理を食べながら聞く FIFA ワールドカップロシア大会報告

—ホットな現地の様子を生き生きと—

【演 著】徳田 仁（観戦ツアー主催者の立場から）

　　守屋俊秀（観戦ツアー参加者の立場から）

　　笹原 勉（きままな旅行者の立場から）

【参加者（会員・メンバー）15 名】

今廣佳郎（会社員）、奥山純一（フットリンク運営者）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、木村康子（フリーライター）、齊藤宣彰（会社役員）、笹原勉（日揮（株））、白井久明（弁護士）、竹中茂雄（東海道品川宿 FC）、田中理恵（会社員）、張寿山（明治大学）、徳田仁（株式会社セリエ）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷区サッカー協会）、吉原尊男

【参加者（未会員）15 名】

稻富健（会社員）、上田美亜（NPO 法人 Alazi Dream Project）、神谷隼人（オフィス神谷）、国島栄市（ビバ！サッカー研究会）、笹原佐永子、鈴木崇正（会社員）、藤田実樹（順天堂大学）、守屋佐栄、凌竜也（会社員）、他 6 名

【報告書作成者】徳田仁、守屋俊秀、笹原勉

【スケジュール】

19:00 参加者受付（ドリンクスタート）

19:00～19:10 イベントの趣旨説明

19:10～19:20 参加者一言自己紹介

- 19:20～19:45 FIFA ワールドカップロシア大会報告①
(徳田氏：観戦ツアー主催者(株式会社セリエ代表取締役))
- 19:45～20:10 FIFA ワールドカップロシア大会報告②(守屋氏：観戦ツアーに参加)
- 20:10～20:20 フードスタート(セネガル料理の紹介)
- 20:20～20:45 FIFA ワールドカップロシア大会報告③(笹原氏：個人で手配し、ままに旅行)
- 20:45～ セネガル料理で懇親会！(21:30 で中締め)

《2018年8月(通算264回)月例会報告》

【日 時】2018年8月27日(月)19:00～21:00

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室(〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1)

【テーマ／話題提供者】FIFA ワールドカップ討論会—ロシア大会での事例をめぐって

- 1) 日本 vs ポーランド戦における日本代表(西野監督)の選択について／中塚義実(筑波大附属高校)
- 2) VAR(ビデオアシスタントレフェリー)の導入について／小幡真一郎(JFA1級インストラクター)
- 3) 「パブリックビューイング」をめぐって／松井完太郎(国際武道大学)

【参加者(会員・メンバー) 15名】

大河原誠二(桐窓サッカークラブ)、奥崎覚(Qoly)、小幡真一郎((公財)日本サッカー協会)、笠野英弘(山梨学院大学)、木村康子(ライター)、小池靖(サッカースポーツ少年団コーチ/在さいたま)、斎藤芳(桜丘中学高等学校)、笹原勉(日揮)、嶋崎雅規(国際武道大学)、白井久明(弁護士)、徳田仁(株セリエ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、本多克己(株シックス)、皆川宥子(東京大学)、守屋俊英(世田谷サッカー協会)、

【参加者(未会員) 5名】

鈴木崇正(NECマネジメントパートナー)、松井完太郎(国際武道大学)、守屋佐栄、済木崇、国島栄市

【報告書作成者】田崎 蒼(国際武道大学)

【概要】

- 1) 日本 vs ポーランド戦における日本代表(西野監督)の選択について／中塚義実(筑波大附属高校)
グループステージ最終戦をめぐっては過去の大会からいろいろあった。最終節の開始時刻を合わせるようになったのは86年大会から。予選も同様である。ここでは、今大会のグループステージ最終戦・日本 vs ポーランド戦における日本代表(西野監督)の選択について議論が行われた。

大会後のBS番組に田嶋幸三会長が出演した映像を見ると、日本 vs ポーランド戦のラスト10分の戦い方について「多くの方からご意見をいただいた」とことが披露され、「日本はこういうことができるようになった」とのポジティブなとらえ方が述べられている。

日本のメディアは「日本はここまでできるようになった」と肯定的に捉える報道がほとんどだった。その中で朝日新聞の忠鉢信一氏が「『規範』守らぬ西野監督 世界のサッカーを敵に回した」と題する記事を紙上に展開した。大手メディアにおける厳しい意見は忠鉢氏ぐらいか。

参加者による熱い議論が繰り広げられた。

- 2) VAR(ビデオアシスタントレフェリー)の導入について／小幡真一郎(JFA1級インストラクター)
VARの目的は「試合を再審判しない」こと。対象は「判定が明白な間違いであること」と「見逃された重大な事象」であること。この二つが対象になる。FIFAは「最小の干渉で最大の利益を得た」。今回のデータでいくと、判定の精度が約90%から98%まで上がった。

FIFAは、①主審は常に決定しなければならない、②主審のみがレビューを開始できる、③レビューに

時間的制約はない—正確さは速さより重要である、④主審は透明性を確保するために可能な限りレビューは目に見えるところに留まる、⑤最終決定は主審によって行われる、⑥元の決定がはつきりした明白な間違いであるときのみ変更される、という原則を掲げてロシアワールドカップに向かった。選手にチャレンジ権はない。

VAR が関わる事象として、①得点、②PK、③一発退場、④退場・警告などの人間違いの 4 つが挙げられている。

この後、3 本の動画を視聴し、参加者で議論が行われた。

3) 「パブリックビューリング」をめぐって／松井完太郎（国際武道大学）

YouTube で SONY のアフリカでの活動を観ることができる（YouTube 上で“Public Viewing in AFRICA”で検索）。2010 年の FIFA ワールドカップ南アフリカ大会のときに、自国のナショナルチームの試合を観戦できないというアフリカ諸国の村に、大きなスクリーンとプロジェクターを持ち込んで、パブリックビューリングをする。参加したアフリカの子どもたちの生き生きとした驚きと熱狂を見ていると「いい仕事しているなあ」と感じる。

ロシア大会本戦では、非営利かつ無償でパブリックビューリングをやっても「映像を拡大する特別の装置」を使えば、最低でも 30 万円のライセンス料が必要であることが、電通メディアパートナーズの運営するサイトに掲出された。

FIFA のサイトを見ると、ロシア大会パブリックビューリングに関する一般規則が公開されている。電通のようなライセンサーがいる国以外では、全く別のゆるやかな基準でパブリックビューリングを認めている。すなわち、参加者が 5000 人以下の非商業イベントは許可なく開催 OK。しかも、パブリック等でも、見せることに特別料金を取らなければ、非商業イベントと認められることが規定されています。なぜ日本で、非商業・無償パブリックビューリングに対しても高額ライセンス料を設定してコントロールするのか。

この後、参加者でパブリックビューリングをめぐって議論が繰り広げられた。

《2018 年 9 月（通算 265 回）月例会報告》 9 月 17 日（祝）に公開シンポジウム「部活動を語ろう！」を行う。

《2018 年 10 月（通算 266 回）月例会報告》

【日時】2018 年 10 月 24 日（水）19：10～21：30

【会場】筑波大学附属高校 3F 会議室（〒112-0012 東京都文京区大塚 1-9-1）

【テーマ】文京ラグビースクールにおける学び —ラグビースクールが果たすべき役割—

【演者】齋藤 守弘（日本ラグビーフットボール協会 企画部 担当部長／文京ラグビースクール 校長）

【コーディネーター】嶋崎 雅規（国際武道大学）

【参加者（会員・メンバー）8 名】

小池靖（在さいたま市/サッカースポーツ少年団指導者）、小山基彰（部活動応援プロジェクト YELL 代表）、

嶋崎雅規（国際武道大学）、張寿山（明治大学）、名方幸彦（文京教育トラスト）、

中塚義実（筑波大学附属高校）、皆川宥子（東京大学大学院）、守屋俊英（世田谷サッカー協会）

【参加者（未会員）2 名】

齋藤守弘（日本ラグビー協会）、守屋佐栄

【報告書作成者】名方幸彦（文京教育トラスト）

【概要】

ラグビースクールを立ち上げたときに考えたことは、「ラグビーをする場づくり」である。ラグビーを教えるのではなく、ラグビーを通じて教育がしたいと思った。日曜日の午前中にのんびりとすることも悪くはないが、早起きしてグランドに行く、子供たちにそういう時間を提供できればと思い、始めた。

基本的にラグビースクールはどこでも5つのカテゴリーに分けて運営されている。幼稚園クラスは年少から年中まで、低学年クラスは小1と小2、中学年クラスは小3と小4、高学年は小5と小6です。これに加えて中学生のクラスがある。ラグビーは低学年(小1.2年生)はミニラグビーで5人制、中学年(小3-4年)で7人制、高学年(小5,6年生)で9人制となる。現在の登録者は180名程度。

課題はコーチの確保。ラグビー練習はコーチの人数がサッカーに比較するとたくさん必要である。大体児童4-5名に1人のコーチが求められている。今は50名がコーチ登録しており、毎回35名前後のコーチ・スタッフがボランティアとして参加している。

スクールの育成方針は、ラグビーの言葉として有名な ALL FOR ONE、ONE FOR ALL(一人はみんなのために、みんなはひとりのために)。同時に児童や保護者に伝えたいのは、スポーツを楽しむ姿勢や習慣を持つてほしいということである。ラグビーというのは、集団スポーツなので、一人で頑張ることだけでなく、みんなのために頑張ること、我慢することも大事だということを伝えていきたい。

特筆すべきイベントである夏の菅平合宿(2泊3日)は今年も、総参加者151名(児童92名、スタッフ38名、保護者21名)の参加で実施した。小学生1年生から6年生まで2泊3日の合宿を通して大きく成長する。但しこの夏合宿を実施することはスタッフ一同の努力のたまものであり、コーチ・スタッフ、参加された保護者も含めた成長の場であるということを忘れてはならない。夏合宿で他のスクールと違うことをあげれば、学習の時間を設けて毎朝30分勉強を行っているところ。ラグビー合宿でもいつでも勉強はおろそかにしない姿勢を身につけてもらいたい。

今後の課題のひとつは、スタッフのレベルアップ。子どもが成長するためには、まずコーチがしっかりとしないといけない。コーチが適切なスキルを持つことが大事である。そのためにさまざまな講習にも参加してもらっている。

最後に、質疑応答を行った。

《2018年11月(通算267回)月例会報告》

【日 時】2018年11月17日(土) 17:25~19:30

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室

【テーマ】サッカーの戦術を構築する

【演 者】北田典央(所属なし、会社員)

【参加者(会員・メンバー)6名】

北田典央(会社員/サッカー好き)、小池靖(さいたま市/サッカースポーツ少年団指導者)、

斎藤芳(桜丘高校)、徳田仁(株セリエ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、

守屋俊秀(世田谷サッカー協会)

【参加者(未会員)3名】

守屋佐栄、吉井柊二(日体大4年/筑駒コーチ)、国島栄市

【報告書作成者】斎藤芳(桜丘高校)

【概要】

はじめに、「戦術」とは何かについて話された。サッカーにおける「戦術」とは、勝利のための手段・方策であり、戦術構築は監督必須のスキルである。しかし、たとえ戦術が構築できたとしても伝えるスキルがなければ選手たちは動けない。何を練習すればよいかもわからない。

その後北田氏から、ゴールを奪える要素、①ボールとゴールの間の人数が少ないと、②（ゴールへの）距離が近いこと、③向きが前向きなことや、ボールを奪われないこと、①広いこと、②バックパスができること、③相手より先にボールに触ることなどが定義され、最終的には「戦術構築」のワークショップを行った。

《2018年12月（通算268回）月例会報告》

【日 時】2018年12月21日（金）18：00～21：50ごろ（中締め。最後は23：30ごろまで）

【会 場】ティアスサナ Tia Susana

【テーマ】お宝映像上映会

【参加者（会員・メンバー）6名】

金子正彦、岸卓巨（JISS）、斎藤芳（桜丘高校）、茅野英一（帝京大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷サッカー協会）、吉原尊男

【参加者（未会員）5名】

守屋佐栄、岸卓巨妻子、国島栄市、藤井一朗（桐窓サッカー倶楽部）

【概要】

お宝映像は1970FIFAワールドカップ・メキシコ大会準々決勝「ブラジルvsペルー」。全盛期のペレとその仲間たちが織りなす“史上最強”のブラジルに2点をとったペルー代表。その監督は1958年優勝チームの英雄ディディである。クラシックな時代の南米サッカーを堪能しながらペルー料理を楽しもうという企画であった。

《2019年1月（通算269回）月例会報告》

【日 時】2019年1月18日（金）19：00～21：40

【会 場】桐陰会館（筑波大学附属中高敷地内）

【テーマ】ボッチャ体験会&Non-Border ボッチャ交流会（2月11日）実行委員会

【講 師】佐藤妙子（豊島区スポーツ推進委員）

【コーディネーター】岸卓巨（NPO法人サロン2002事務局長）

【参加者（会員・メンバー）7名】

安藤裕一（GMSS ヒューマンラボ）、大河原誠二（桐窓サッカー倶楽部）、岸卓巨（サロン2002事務局）、嶋崎雅規（国際武道大学）、皆川宥子（東京大学大学院）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷区サッカー協会）

【参加者（未会員）6名】

岸弘子、岸弘之（豊島区スポーツ推進委員）、佐藤妙子（豊島区スポーツ推進委員）、土井伸一（NEC ボッチャ部）、長尾樹（TEETER TOTTER）、守屋佐栄

【報告書作成者】岸卓巨

【概要】

桐陰会館の和室に集まり、参加者自己紹介を行った後、コーディネーターの岸より本日の月例会の趣旨と2月11日に予定している「Non-Border ボッチャ交流会」の趣旨及び準備状況について説明した。

その後ホールに移動し、レイアウトやリーグ編成について相談した。レイアウトについては、当初4面作ることを想定していたが、1つのコートを小さくすることで6面作ることができるのではないかとの意見が出された。また、通常は6個ある投球ボックスについて、参加者数がチームによって異なることや参加者の中には車椅子の方もいることから2個にした方がいいのではないかとの意見が出された。

そこで、実際にコートを作った。コート作りは佐藤氏の解説のもと行い、初めてボッチャを行うメンバーにとってコート作成方法を覚える機会にもなった。リーグ編成については、6面で実施した場合、4チームリーグを作成することでスムーズに進行できることが確認された。

さらに、佐藤氏の解説のもとボッチャを体験した。月例会参加者の中には初めてボッチャをプレーする人もいたが、適宜質疑応答を行いながらルールを確認し、交流会当日に審判を行うイメージを掴んだ。

最後に、月例会参加者を3つのチームに分けて、リーグ戦を行った。また、この時間から食事を開始し、当日の軽食提供・ボッチャバー設置のイメージも確認した。リーグ戦では、ボッチャの審判経験がないメンバーも積極的に審判を務め、審判方法をマスターできるように心がけた。交流会の趣旨に鑑みて、一部ボッチャ公式ルールから変更する点についても確認した。

⟨⟨2019年2月（通算270回目）月例会報告⟩⟩

【日時】2019年2月27日（水）19:00～21:10（終了後は「旺達」～23:00すぎ）

【会場】筑波大学附属高校3F音楽室（会議室の隣）

【テーマ】サロン2002からのメッセージ①ユース年代にリーグ戦を

—U-18フットサルリーグ・チャンピオンズカップをめぐって

【演者】本多克己（NPO法人サロン2002副理事長／株式会社シックス）

中塚義実（NPO法人サロン2002理事長／筑波大学附属高校）

【参加者（会員・メンバー）7名】

安藤裕一（㈱GMSSヒューマンラボ）、岸卓巨（JADA）、清水絢子、茅野英一（帝京大学）、
中塚義実（筑波大学附属高校）、本多克己（㈱シックス）、守屋俊秀（世田谷サッカー協会）

【参加者（未会員）8名】

開沼位晏（明治大学学生）、崔允敬＝チェユンギヨン（㈱JSP）、谷富慎一・錦戸蓮（熊本国府高校）、
常木翔（三井物産）、沼田隆治（フリースタイルフットボール）、守屋佐栄、山本雅彦（㈱みずほ銀行）

【報告書作成者】開沼位晏（明治大学学生）

【概要】

はじめに、本多克己氏より、U-18年代のフットサルチャンピオンズカップ創設までの経緯が語られた。フットサルの1つの魅力は多様性を受け入れることである。2000年頃から中塚先生たちを中心に東京都でU-18年代のフットサルの公式大会が始まり、そのうちリーグ戦に発展する。2010年にはホンダカップでU-18カテゴリーを新設した。当時「全国にU-18のフットサルチームなんてないよ」と言われていましたが、大会を開催してみるとチームがたくさん存在していることがわかり、「全国大会を作つてあげないと」と思い始め、2012年3月に、名古屋のオーシャンアリーナで「U-18フットサルトーナメント2012」という大会を新設した。2014年にはJFA主催で単独チームの日本一を決める大会「JFA全日本ユース（U-18）フットサル大会」が始まった。

次の課題は各地域で日常的にプレーしてもらえるリーグ環境を整備することと考え、それを促していくためにリーグチャンピオンによる全国大会を開催しようとなり、NPO法人サロン2002が大会を主催する「U-18フットサルリーグ・チャンピオンズカップ」という大会が作られた。第1回目は静岡県のエコパアリーナで8チームの参加で開催された、2回目からは12チームの参加となり、昨年度は名古屋のオーシャンアリーナ、今年度は長野のことぶきアリーナ千曲で開催された。いずれも地元の協会、連盟の大きな協力を得て開催することができた。

今後、チーム数が16チームに増えた場合、大会を2日間ではなく3日間行うかなどの議論がある。チーム数が増えてくるというのはうれしい悲鳴である。また開催時期も、1月ではなく3月のほうがよいのではないかという意見もある。

《2019年3月（通算271回）月例会報告》

【日 時】2019年3月27日（水）19:00～21:10

【会 場】筑波大学附属高校3F会議室（〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1）

【テーマ】サロン2002からのメッセージ② オリンピズムを教育に

I. 大河ドラマ「いだてん」～スポーツ史考証の立場から

II. オリンピズムを教育に

【演 著】大林太朗（筑波大学/CORE運営委員）、中塚義実（筑波大学附属高/NPOサロン理事長）

【参加者（会員・メンバー）6名】

梅澤佳子（多摩大学経営情報学部）、梅本嗣（（株）博報堂）、岸卓巨（日本アンチ・ドーピング機構）、小池靖（在さいたま市／サッカースポーツ少年団指導者）、清水絢子、中塚義実（筑波大学附属高校）

【参加者（未会員）16名】

飯田祐眞（筑波大学大学院）、内田裕之（自由学園）、大竹口智也（（株）アンダーアーマー）、大林太朗（筑波大学/CORE運営委員）、神谷隼人（株式会社オフィス神谷）、川島健司（読売新聞編集委員）、糸井正勝（インターナショナルスポーツ株式会社）、鈴木崇正（NECマネジメントパートナー）、田中康之（立川高校）、西祐貴子（筑波大学附属高等学校）、福島成人（ヨコハマ・フットボール映画祭）、宮内貴圭（東京大学教育学部付属中等教育学校）、山田恵子（自由学園）、渡邊明志（筑波大学附属聴覚）、和田恵子（日本オリンピックアカデミー）、国島栄市

【概要】

I. 大河ドラマ「いだてん」～スポーツ史考証の立場から（大林太朗）

1. 大河ドラマ「いだてん」との関連で

2. スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

3. 1964年東京大会におけるオリンピック学習

II. オリンピズムを教育に（中塚義実）

1. 金栗四三の母校：東京高等師範学校－蹴球部初代主将・中村覚之助をめぐって

2. オリンピズムを教育に－国際・国内ユースフォーラムを中心に

3. 今後の課題－議論したいこと

演者の大林太朗氏は、筑波大学体育系助教、同オリンピック教育プラットフォーム（CORE）の運営委員を務め、大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺」のスポーツ史考証に携わる研究者である。愛知県名古屋市出身。筑波大学体育専門学群、同大学院修了。現役時代の専門種目は十種競技。2011年から約半年間、ギリシャ共和国のオリンピアに位置する国際オリンピックアカデミー（ペロポネソス大学大学院）に留学し、オリンピックの歴史を専攻した。金栗四三はじめ東京高等師範学校陸上競技部のDNAを受け継ぐ学究の徒である。

第271回月例会は、はじめに中塚氏より本月例会の趣旨説明があり、参加者が自己紹介を行った後、大林氏、中塚氏の講演と続いた。大林氏から「いだてん」の考証エピソードを交えて日本におけるオリンピック・ムーブメントの経緯が紹介され、同氏が現在CORE運営委員として推進に携わっているスポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」の現状と課題が説明された。

最後に国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの引率をはじめ、オリンピック教育に深く携わった中塚氏から「オリンピズムを教育に」のメッセージの中身、現状と課題を伺った。

2. 公開シンポジウム

2018年9月17日に、「部活動を語ろう！－高校サッカーハイツを機に－」と題して、公開シンポジウムを開催しました。

ちょうど今年(2018年)は、1918(大正7)年1~2月に全国3カ所ではじまった旧制中学の蹴球大会から100年目にあたります。高校野球も2018年夏が第100回の記念大会です。日本のスポーツを百年以上にわたってささえ続けてきた部活動のあゆみを歴史的な視点で振り返ると共に、部活動の「いま」をさまざまな角度から考察し、「これから」についてはいくつかの事例を紹介しながら語り合いました。この分野に深くかかわっている各演者が、単なる批評や安易なノスタルジーに浸ることなく、部活動の今後について、会場の方々と本質的な議論を行いました。

シンポジウム終了後は同会場で懇親会を実施、さまざまな立場の方が集い、立場を越えて交流を深める場となりました。

本シンポジウムの内容については、広報誌『游 ASOBI』第2号に詳しく掲載されています。

テーマ： 部活動を語ろう！－高校サッカーハイツを機に－

主催： 特定非営利活動法人サロン2002

後援： 日本部活動学会

賛助団体： 大月書店、洋泉社

日時： 2018(平成30)年9月17日(月祝) 14:00~17:00 (受付13:30~)

会場： 桐陰会館

プログラム：

講演1) そもそも部活って何？－国際比較・歴史的背景・重要課題

　　演者：中澤 篤史(早稲田大学、全国高体連研究部活性化委員会アドバイザー)

講演2) 日大悪質タックルと体操問題から見えるもの

　　演者：中小路 徹(朝日新聞社、スポーツ政策研究会幹事)

講演3) 少子化時代の部活動

　　演者：嶋崎 雅規(国際武道大学)

講演4) ユースリーグとU-18フットサルから見えるもの

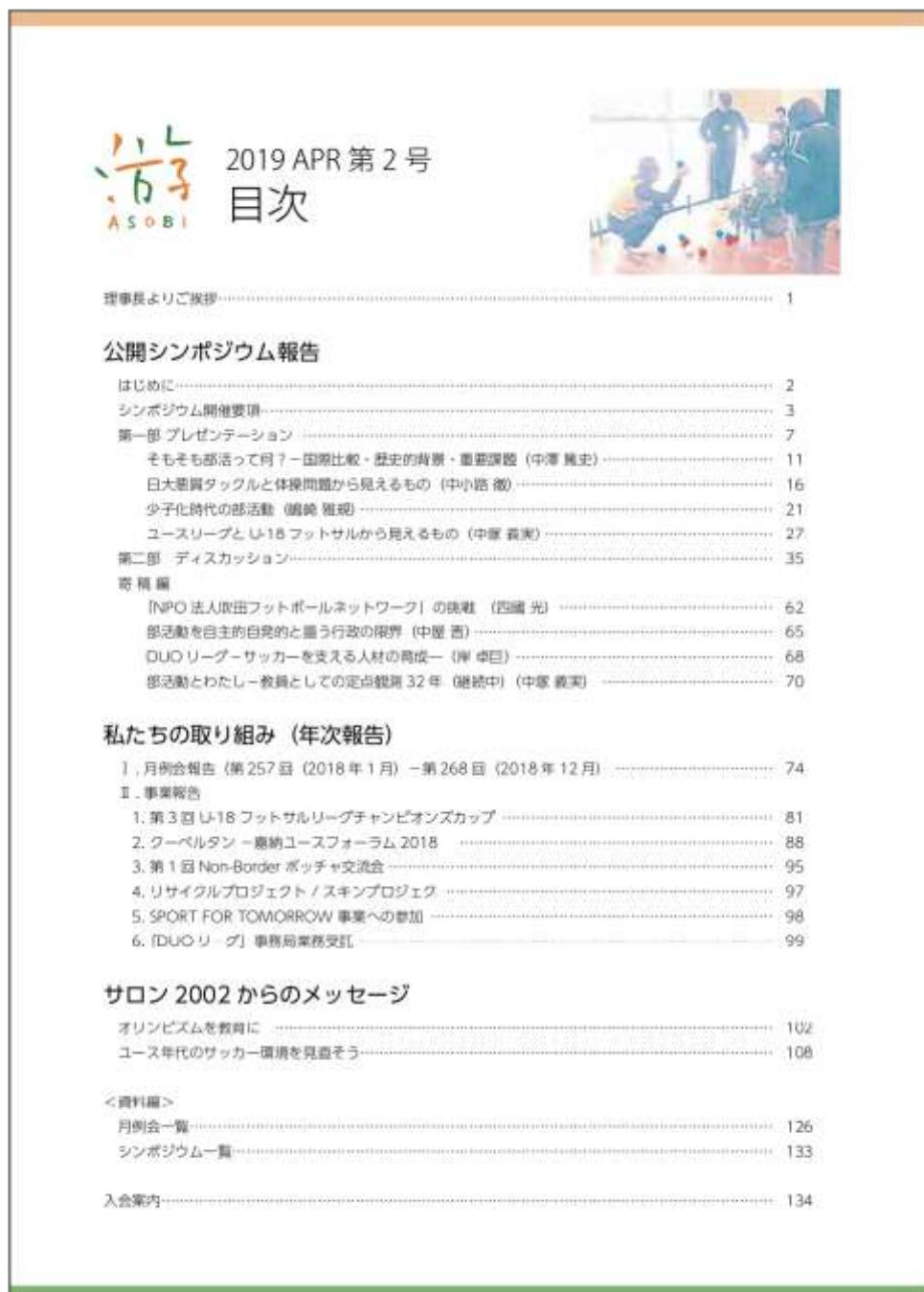
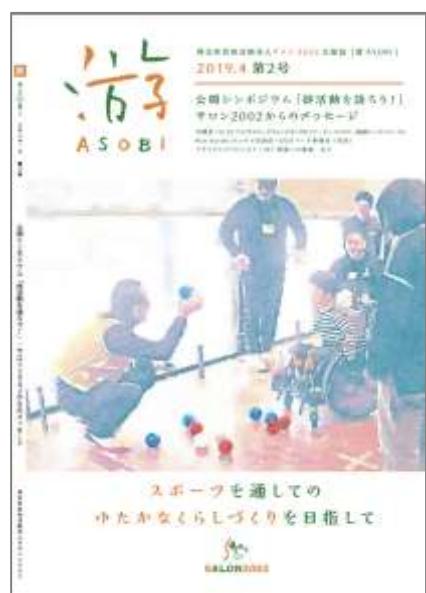
　　演者：中塚 義実(筑波大学附属高校、全国高体連研究部活性化委員長)

参加者： 62名

3. 広報紙「游」第2号の作成

2019年3月末に、広報誌『游 ASOBI』第2号を発行しました。公開シンポジウム「部活動を語ろう！」、Non-Border ボッチャ交流会やクーベルタン-嘉納ユースフォーラムなど、私たちの“志”である「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」につながるさまざまな取り組みが紹介されています。さらに今号には、サロン2002からのメッセージとして「ユース年代にリーグ戦を」「オリエンピズムを教育に」が掲載されています。

totoの助成を受け、600冊作成しました。一人でも多くの方の手に渡り、わたしたちのメッセージを受け取っていただければと存じます。



2019 APR 第2号
目次

理事長よりご挨拶 1

公開シンポジウム報告

はじめ 2
シンポジウム開催要項 3
第一部 プレゼンテーション 7
そもそも部活動って何？－国際比較・歴史的背景・重要な課題（中澤 雄史） 11
日大選手タッグルと体操問題から見えるもの（中小路 徹） 16
少子化時代の部活動（鶴見 雅規） 21
ユースリーグとU-18 フットサルから見えるもの（中澤 雄史） 27
第二部 ディスカッション 35
寄稿編
【NPO 法人JR東日本フットボールネットワーク】の挑戦（西園 光） 52
部活動を自主的・自発的で語る行政の限界（中屋 善） 55
DUO リーグーサッカーを支える人材の育成（岸 卓臣） 58
部活動とわたしー教員としての定点観測 32年（健徳中）（中澤 雄史） 70

私たちの取り組み（年次報告）

I. 月例会報告（第257回（2018年1月）- 第268回（2018年12月） 74
II. 事業報告
1. 第3回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ 81
2. クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2018 88
3. 第1回 Non-Border ボッチャ交流会 95
4. リサイクルプロジェクト / スキンプロジェクト 97
5. SPORT FOR TOMORROW 事業への参加 98
6. [DUO リーグ] 事務局業務受託 99

サロン2002からのメッセージ

オリエンピズムを教育に 102
ユース年代のサッカー環境を見直そう 108

<資料編>

月例会一覧 126
シンポジウム一覧 133

入会案内 134

4. 「DUO リーグ」事務局業務受託

サロン 2002 では、2016 年 2 月より DUO リーグの事務局および企画部業務を受託しています。DUO リーグは、東京都文京区・豊島区・足立区・中央区の高校運動部を中心としたサッカーリーグで、全国に広がるユースサッカーリーグのモデルとなったリーグです。レベルやニーズに応じて、「歯磨き感覚」

「引退なし」「補欠ゼロ」でサッカーが楽しめる環境づくりを目指しています。サロン 2002 理事長の中塚義実が初代チアマンを務め、DUO リーグの理念や構想にはサロン 2002 の月例会での議論が大きく影響しています。現在は、地区トップリーグへの昇格をかけた前期リーグ戦とピッチのサイズや出場選手数に柔軟性を持たせた後期リーグ戦（フリーサイズフットボールおよびフレキシブルリーグ）が行われています。

2018 年度は、DUO リーグのホームページをリニューアルした他、企画部として 2018 年 7 月 16 日に東京リゾート＆スポーツ専門学校に協力いただき DUO リーグ関係者（プレーヤー・マネージャー・指導者等）を対象とした「テーピング＆リハビリ＆アジャリティトレーニング講習会」を開催しました。



5. 第3回 U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

ごあいさつ

リーグ戦は最高の“あそび”－第3回大会を終えて

U-18フットサルリーグ チャンピオンズカップが、はじめて信州で開催されました。

初日の代表者会議では、この大会の二つのねらい、「U-18年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」について、主催者の思いを熱く語らせていただきました。

ベスト4のうち3チームがFLリーグの下部組織です。「U-18年代のレベルアップ」の背景が理解できます。その中で優勝したのが京都橘高校サッカー部であることも、この年代の育成・強化の多様性を感じられます。U-18年代にはさまざまなクラブが存在します。レベルやニーズに応じて「日常的なリーグ環境の整備」を進めてください。夜の指導者懇親会ではゲームの話とともに、各地のリーグ戦の様子が語られました。こういう機会は大事ですね。

ここで改めて、私たちが考える「リーグ環境」「リーグ戦」について述べておきます。

リーグ戦は「組織」です。特定の個人や業者に任せ「総当たり戦を行う」ものではありません。ゲームを楽しむ人たち自身で自分たちの活動をささえる－自主運営と受益者負担が原則です。ささえる活動を楽しむマインドが根底にあります。

リーグ戦は“生活”です。平日のトレーニングと週末のゲームで1週間の「サイクル」を形成し、リーグ期間が「シーズン」となります。ワンテーマツチで「総当たり戦を行う」ことではありません。リーグ期間をどこに持っていくかは大きな課題です。地域ごとの事情もあるでしょう。皆さんからのご意見をいただければ幸いです。

リーグ戦は“あそび”です。“あそぶ”的な前につける形容詞は「自然に」「ちゃんと」「本気で」「徹底的に」がふさわしいでしょう。定期的に“あそぶ”仕組みがリーグ戦です。言われたから「総当たり戦を行う」のではありません。やりたいから、やりたい人がやるのです。

NPO法人サロン2002の“志”は「スポーツを通してのゆたかなくらし」です。それは徹底的に“あそぶ”ことが根底にあります。「生きる」だけならなくてもよいが、「よく生きる」には欠かせない文化であるスポーツやアートの原点にある“あそび”を、私たち大事にしています。

主管の長野県フットサル連盟はじめ運営に携わってくださった方々、そしてスポンサーとしてささえてくださった方々、応援してくださった方々、ほんとうにありがとうございました。

来年も、その先も、totoの助成を受けながら、しっかりとこの大会を支え続けてまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人サロン2002

理事長 中塚 義実

U-18フットサルのあゆみ

●JFA 全日本U-18フットサル選手権大会

主催 公益財団法人日本サッカー協会

主管 一般社団法人宮城県サッカー協会

後援 スポーツ庁、仙台市、スポーツコミッションせんだい

開催年	優勝チーム	会場
2014年	聖和学園FC（宮城）	大田区総合体育館、墨田区総合体育館
2015年	岡山県立作陽高校（岡山）	ゼビオアリーナ仙台、仙台市体育館
2016年	帝京長岡高等学校（新潟）	ゼビオアリーナ仙台、仙台市体育館
2017年	矢板中央高等学校（栃木）	ゼビオアリーナ仙台、カメイアリーナ仙台（仙台市体育館）
2018年	帝京長岡高等学校（新潟）	ゼビオアリーナ仙台、カメイアリーナ仙台（仙台市体育館）

●GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント

2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。

2015年からは名称を変更し、全国9地域から選抜された12チームで大会が開催されている。

開催年	優勝チーム	会場
2012年	名古屋オーシャンズU-18（愛知）	オーシャンアリーナ
2013年	藤沢内高校（広島）	オーシャンアリーナ
2014年	幕張総合高校（千葉）	鈴鹿体育館
2015年	愛知県選抜U-18	墨田区総合体育館
2016年	U-18新潟県選抜	墨田区総合体育館
2017年	U-18新潟県選抜	墨田区総合体育館

●グリーンアリーナ神戸カップフットサルフェスティバル

夏休み期間に特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブを主催として開催されるフェスティバル。

開催年	優勝チーム	準優勝チーム
2012年	SAKUYO Coracao do Verde	神戸国際大学附属高校
2013年	名古屋オーシャンズU-18	SAKUYO
2014年	岡山県立作陽高校	エンフレンテ熊本
2015年	SAKUYO	名古屋オーシャンズU-18
2016年	フウガドールすみだファルコンズ	サントス サッカーショップ
2017年	OKAYAMA SAKUYO	フウガドールすみだファルコンズ
2018年	SBFCロンドリーナ U-18	ASV PESCADOLA町田U-18

●フットサルフェスタ（旧ホンダカップ）

1997年から開催されているフェスティバル大会に2010年からU-18カテゴリーを設定。

関東・東海・関西で予選大会が開催されている。

開催年	優勝チーム	準優勝チーム
2010年	名古屋オーシャンズU-18	さくようフットサル部
2011年	府中アスレティックFCユース	作陽 Oito Soldados
2012年	SAKUYO Nao admitem	武相高校
2013年	クラーク記念国際高校	東京成徳大学高校フットサル同好会
2014年	クラーク記念国際高校	湘南工科大学附属高校
2015年	SERITZ A	SAKUYO
2016年	フウガドールすみだファルコンズ	サントス サッカーショップ
2017年	クラーク記念国際高等学校	フウガドールすみだファルコンズ
2018年	サントス サッカーショップ	SBFCロンドリーナ U-18

大会要項

名称
第3回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

主催
特定非営利活動法人サロン2002

主管
長野県フットサル連盟

後援
一般社団法人長野県サッカー協会

協賛
加茂商事株式会社、株式会社ジャパン・スポーツ・プロモーション、多摩大学

期日
2019年1月5日(土)、1月6日(日)

会場
ことぶきアリーナ千曲(長野県)

参加資格

- 一般財団法人日本フットサル連盟に加盟承認された単独チームであること。
- 第1項に所属する2000年4月2日以降に生まれた選手で男女を問わない。但し、高等学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない。
- 当該チームにおいて、2018年度のU-18フットサルリーグに出場している選手であること。

参加チーム

- 参加チームは、次の各号により選出された12チームとする。
- 地域または都道府県のフットサル連盟が主催、主管または後援して開催される2018年度のU-18フットサルリーグの優勝チーム。
 - 出場チームが12チームに満たない場合は、以下の順で出場チーム枠を設定し、12チームでの開催とする。
 - 開催地のリーグ優勝チーム
 - 当該年度のリーグ参加チーム数の多いリーグの準優勝チーム

大会形式

- 1次ラウンド：12チームを4チームずつ3グループに分けてリーグ戦を行い、各グループ1位チーム及び2位のうち成績上位1チームが2次ラウンドへ進出する。順位は、勝点合計の多いチームを上位とする。勝点は、勝ち3、分け1、負け0とする。ただし、勝点合計が同じ場合は、以下の順序により決定する。
 - 当該チーム内の対戦成績
 - 当該チーム内の得失点差
 - 当該チーム内の総得点数
 - グループ内での得失点差
 - グループ内での総得点数
- 下記に基づく警告、退場のポイント合計がより少ないチーム
 - イエローカード1枚 1ポイント
 - イエローカード2枚によるレッドカード1枚 3ポイント
 - レッドカード1枚 3ポイント
 - イエローカード1枚に続くレッドカード1枚 4ポイント
- 抽選
- 1次ラウンドの各グループ2位チームのうち、2次ラウンドに進出するチームは、以下の項目の順序で決定する。
 - 勝点合計
 - 得失点差
 - 総得点数
 - 抽選
- 2次ラウンド：上位4チームによるノックアウト方式で行う。(3位決定戦は行わない)

競技規則

大会実施年度の「フットサル競技規則」による。

競技会規定

以下の項目については、本大会で規定する。

- ピッチ
35~40m×16~20m
- ボール
試合球：フットサル4号ボール
- 競技者の数
競技者の数：5名
交代要員の数：9名
- チーム役員
チーム役員：4名以内
- 競技者の用具
 - ユニフォーム
 - フィールドプレーヤー、ゴールキーパーともに、色彩が異なる

り判別しやすい正副のユニフォーム(シャツまたはジャージー、パンツ、ストッキング)を参加申込書に記載し、各試合には正副ともに必ず携行すること。

(イ) チームのユニフォームのうち、シャツまたはジャージーの色彩は審判員が通常着用する黒色と明確に判別しうるものであること。

(ロ) フィールドプレーヤーとして試合に登録された選手がゴールキーパーに代わる場合、その試合でゴールキーパーが着用するシャツまたはジャージーと同一の色彩および同一のデザインで、かつ自分自身の背番号のついたものを着用すること。

(ハ) パワーブレーを行なうチームのフィールドプレーヤーのジャージーまたはシャツは、自チームのゴールキーパーと同一の色、デザインとする。

(ホ) シャツまたはジャージーには、参加申込書に登録した選手番号を付けること。ショーツにも選手番号を付けることが望ましい。選手番号は服地と明確に区別し得る色彩であり、かつ判別が容易なサイズのものでなければならない。

(ク) 選手番号については1から99までの整数とし、0は認めない。1番はゴールキーパーのために用意される。

(メ) ユニフォームの色、選手番号の参加申込締切日以後の変更は認めない。

(ロ) 靴：フットサル用シューズのみ使用可能とする。ただし、本大会会場の利用規定により靴底の接地面が鉛色、白色もしくは無色透明以外の色はノンマーキングシューズであっても使用できない場合がある。

(ハ) ピス：交代要員は、競技者と異なる色のピスを着用しなければならない。

6. 試合時間

- 1次ラウンド：24分間(前後半各12分間)のブレーイングタイムとし、ハーフタイムのインターバルは5分間(前半終了から後半開始まで)とする。
- 2次ラウンド：30分間(前後半各15分間)のブレーイングタイムとし、ハーフタイムのインターバルは7分間(前半終了から後半開始まで)とする。

7. 試合の勝者を決定する方法(試合時間内で勝敗が決しない場合)

- ① 1次ラウンド：引き分け
- ② 2次ラウンド：PK方式により次回戦進出チームおよび優勝チームを決定する。PK方式に入る前のインターバルは1分間とする。

懲罰

- 本大会において退場を命じられた選手は、自動的に本大会の次の1試合に出席できない。
- 本大会期間中に警告の累積が2回に及んだ選手は、自動的に本大会の次の1試合に出席できない。
- 前項により出場停止処分を受けたとき、1次ラウンド終了時点で警告の累積が1回のとき、または本大会の終了のとき、警告の累積は消滅する。
- その他、本大会の懲罰に関する事項については、本大会の大会規律委員会が決定する。

参加申込

- 1チームあたり26名(役員6名、選手20名)を上限とし、選手は選出元のリーグに登録していること。
- 申込み締切日以降の参加申込内容の変更は認めない。

電子選手証

各チームの登録選手は、日本サッカー協会発行の電子選手証の写し(写真が登録されたもの: フットサル登録選手)、または選手証(写真が貼付されたもの: サッカー登録選手)を、代表者会議および試合会場に持参すること。電子選手証または選手証が確認できない場合は、試合に出場できない。

表彰

優勝、準優勝のチームを表彰する。

その他

- チームは、ユニフォームおよび電子選手証を代表者会議に持参する。
- 参加チームと選手は日本サッカー協会の基本規程および付属する諸規程を遵守しなければならない。
- 大会規定に違反し、その他不正行為等があった場合は、そのチームの出場を停止する。
- 試合が一方のチームの責に帰すべき事由により開催不能または中止になった場合、その帰責事由のあるチームは0対5または、その時点のスコアがそれ以上であればそのスコアで敗戦したものとみなす。
- 本実施要項に記載のない事項については、大会実行委員会にて決定する。

大会結果

1次ラウンド

会場：ことぶきアリーナ千曲

Aグループ		A1	A2	A3	A4	勝点	得点	失点	得失点	順位	
A1	日本ウェルネス筑北SC	長野県		3△3	2●4	1●10	1	6	17	-11	3
A2	宝塚フットサルクラブU-18	兵庫県	3△3		0●9	0●7	1	3	19	-16	4
A3	ASV PESCADOLA町田U-18	東京都	4○2	9○0		4○1	9	17	3	14	1
A4	サントスFC/santista	愛知県	10○1	7○0	1●4		6	18	5	13	2

Bグループ		B1	B2	B3	B4	勝点	得点	失点	得失点	順位	
B1	明科高等学校サッカー部	間諭地		2●10	2●22	1●5	0	5	37	-32	4
B2	シュライカーダ大阪U-18	大阪府	10○2		1●2	6○0	6	17	4	13	1
B3	SBFCロンドリーナU-18	神奈川県	22○2	2○1		1●2	6	25	5	20	2
B4	エンフレンテ熊本U-18	熊本県	5○1	0●6	2○1		6	7	8	-1	3

Cグループ		C1	C2	C3	C4	勝点	得点	失点	得失点	順位	
C1	不二越工業高等学校	富山県		5●8	2●5	2△2	1	9	15	-6	4
C2	京都橘高等学校サッカー部	京都府	8○5		5○1	5○3	9	18	9	9	1
C3	ディヴェルティード旭川エルマーノス	北海道	5○2	1●5		1●4	3	7	11	-4	3
C4	CRAQUES	静岡県	2△2	3●5	4○1		4	9	8	1	2

2次ラウンド

会場：ことぶきアリーナ千曲



得点ランキング

順位	選手名	所属	得点	順位	選手名	所属	得点	順位	選手名	所属	得点
1	森内 涼馬	SBFCロンドリーナU-18	12	2	山口 勝輝	サントスFC/santista	7	8	板橋 琉聖	ASV PESCADOLA町田U-18	4
				2	金沢 一矢	京都橘高等学校サッカー部	7	8	申斐 稔人	ASV PESCADOLA町田U-18	4
				4	井口 真太郎	シュライカーダ大阪U-18	6	13	ペレイラ チアゴ ヒデキ ミザギ	サントスFC/santista	3
				5	垣谷 将太郎	京都橘高等学校サッカー部	5	13	瀧 立丞	SBFCロンドリーナU-18	3
				6	林 伸二郎	京都橘高等学校サッカー部	5	13	渡辺 旺介	SBFCロンドリーナU-18	3
				5	榎本 輪斗	サントスFC/santista	5	13	申林 隆	シュライカーダ大阪U-18	3
				8	川戸 渉平	京都橘高等学校サッカー部	4	13	岩渕 叶夢	シュライカーダ大阪U-18	3
				8	原田 蓮人	SBFCロンドリーナU-18	4	13	藤本 翼	エンフレンテ熊本	3
				8	千葉 一心	CRAQUES	4	13	石川 肇	明科高等学校サッカー部	3



得点王：森内 涼馬 選手

6. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム2018

【目的】

1. オリンピック教育：日本の高校生にオリンピック・ムーブメントやオリンピズムを理解させる
2. 選考：第12回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの参加者を選考する

注) 2019年8月24日～31日、フランス・マコン市で開催。日本から高校生7名と引率教員1名が参加。参加生徒は筑波大と中京大で開かれるユースフォーラムにて選考する。

【主 催】 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム (CORE)

【共 催】 特定非営利活動法人サロン2002 (NPO法人サロン2002)

【協 力】 特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー (NPO法人JOA)

【期 日】 2018年12月23日（日）～25日（火）

【会 場】 筑波大学（つくば市天王台1-1-1 体育・芸術専門学群棟、野性の森、ダンス場等）
宿泊先：筑波研修センター（つくば市天久保1-13-5）

【参加校】 高校生 男子6名、女子18名、計24名

・筑波大学附属高校 … 男4名、女7名、計11名

・筑波大学附属坂戸高校 … 男1名、女2名、計3名

・自由学園 … 男1名、女9名、計10名

【引率教諭】

所属・立場	氏名	ふりがな	所属／教科・専門分野
筑波大附	西 祐貴子	にし ゆきこ	家庭科
附属坂戸	藤原 亮治	ふじわら りょうじ	保健体育(陸上)
自由学園	男子部 内田裕之	うちだ ひろゆき	保健体育(サッカー)
	女子部 山田恵子	やまだ けいこ	保健体育(体操)

【スタッフ】

所属・担当	氏名	ふりがな	所属／教科・専門分野
筑波大学CORE	コーディネーター 中塚義実	なかつか よしみ	筑波大学附属高校教諭／CORE運営委員 ／NPOサロン2002理事長
	真田 久	さなだ ひさし	筑波大学体育系教授
	宮崎明世	みやざき あきよ	筑波大学体育系准教授
	大林太朗	おおばやし たろう	筑波大学助教
	江上いずみ	えがみ いずみ	筑波大学客員教授
	鈴木王香	すずき おうか	筑波大学体育系研究員
	福田佳太	ふくだ けいた	筑波大学体育系非常勤研究員
NPO法人サロン2002	外山美祐希	とやま みゆき	筑波大学大学院生
	嶋崎雅規	しまざき まさき	国際武道大学／NPOサロン2002理事
	小池 靖	こいけ やすし	スポーツネットサロン2002メンバー
CJPC	皆川宥子	みながわ ゆうこ	東京大学大学院／2013国際YF参加者
高体連視察	田原淳子	たはら じゅんこ	国士館大学／CIPC副会長
	庄司一也	しょうじかずや	全国高体連研究部部長

【プログラムとスケジュール概要（実施要項より転載）】

◆12月23日（日祝）

12：00～12：30 受付（5C507にて）
12：30～13：30 オリエンテーションおよび参加校紹介
14：00～18：00 野外教育活動、飯盒炊爨 ※終了後、研修センターへ移動
23：00 消灯

◆12月24日（月祝）

06：30 起床・ラジオ体操、朝食
08：00 筑波大学体育・芸術専門学群棟へ移動（徒歩約20分）
08：40～09：30 講義① ピエール・ド・クーベルタン（田原淳子）
09：40～10：30 講義② 嘉納治五郎（真田 久）
10：40～11：30 講義③ 国際人としてのおもてなし（江上いずみ）
11：30～13：00 昼食・休憩
13：00～15：00 演習① IOCのOVEP教材を用いたグループ活動（宮崎明世）
15：00～17：00 実技：体操・Gボール（鈴木王香） ※終了後、研修センターへ移動
18：30 夕食
19：30～21：30 演習② オリンピック・パラリンピックについての英語による討議
23：00 消灯

◆12月25日（火）

06：30 起床・ラジオ体操、朝食、移動
09：00～09：50 演習②の報告
10：00～11：00 筆記テスト（オリンピック・パラリンピックに関する内容※出題採点はJOA）
11：00～12：00 総括・閉会式



7. 第1回Non-Borderボッチャ交流会

2019年2月11日、桐陰会館にて「第1回Non-Borderボッチャ交流会」を開催し、約130名が参加しました。ボッチャはヨーロッパで生まれたパラリンピックの正式種目です。パラスポーツかつ共生型スポーツであり、近年は多くの団体や企業でも交流プログラムとして導入されています。本交流会はスポーツを通して年齢・性別・国籍・スポーツ経験などを超えて交流し、“ゆたかなくらしづくり”を目指す企画の1つとして開催しました。

まず初心者などを対象としたボッチャ体験会から始まり、開会式では青年海外協力隊として活動中の浅見明子氏の協力のもとネパールのバクタプルという町の特別支援学校と中継をつなぎ、ネパール語でのカウントダウン「エク、ドゥイ、ティン」の掛け声に合わせて始球式を行いました。国境を越えて二地域が一体となり、Non-Borderを肌で感じた瞬間でした。

続いて第一部の開幕です。参加申込単位で3~6名のチームを組み、6リーグに分かれ総当たりをし、その後の順位決定戦を経て、優勝3チームを決定しました。日頃から練習に励んでいるチームもあれば、今回が初めて・探り探り感触を確かめながら挑んでいるチームもありましたが、終始笑顔や歓声の絶えない、非常に和やかなひとときだったと思います。

また今回の交流会では、ボッチャイベントのほか主に3つの企画を行いました。1つめは団体紹介デスクの設置です。事前に募った7つの団体のデスクを会場内に設置し、活動紹介・チャリティー販売などを行いました。2つめはボッチャバーの設置です。収益の一部を上記の出展団体の活動への寄付とし、希望者にはドリンク購入時に寄付先を選んでいただきました。3つめには「i-PLAY TRUE トーチリレー」の実施。これは日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が展開するプロジェクトで、参加者から集まった「2020年以降に残したいスポーツのいいところ」や「交流会で感じたスポーツの価値」などのメッセージは、東京2020大会期間中にさまざまな形でお披露目予定です。その他、会場校である筑波大学附属中学校・高等学校の卒業生や学校の歴史を紹介する資料室を開放。大河ドラマ「いだてん」で話題の金栗四三氏・嘉納治五郎氏などの功績も展示されており、各々試合の合間に楽しんでいました。

そして第二部では当目くじ引きで決定した混合チームによるノックアウト戦が行いました。第一部で見られた盛り上がりのまま、すぐにチームが溶け込んでゆく様子が印象的でした。固唾を飲んで見守るシーンやハイファイブで喜ぶシーン…数々の名場面が生まれたことでしょう。最後には会場全体が1つのコートに注目する中、白熱した決勝戦が行われました。個人の技量もさることながら、即席グループとは思えないチームワークを持つ両チーム。とても見応えのある試合でした。



ネパールでのボッチャ交流会の様子



参加者から寄せられたメッセージ
(i-PLAY TRUE トーチリレー)



祈る姿勢は三者三様、
しかし想いは一つ。

閉会式では表彰のほか、ナイジェリア政府の草の根スポーツ開発局長や会場校代表の高校生、優勝チームのスピーチ等が行われ、優しい雰囲気の中、交流会は幕を閉じました。

日常生活における交友関係は何となく決まってしまい、限られた輪の中での交流を深めることが多いのが現状です。そんな中、今回の交流会は、まさにある共通の興味を持った人々が一堂に会し、スポーツを通じてNon-borderを体感する場となりました。ゆたかなくらしづくりの1つのカタチとして、このようなきっかけづくりに大きな可能性を感じた一日でした。

<参加者からのコメント>

参加者の皆さんから多くのメッセージをいただきましたので、その一部をご紹介させていただきます。

「性別国籍体格関係なしにできるボッチャ会場には色んな方がいて盛り上がりの中にも優しい空気を感じました。」「もっともっとボッチャの輪が世界に広りますように...」「あれだけ『えーめんどくさいー』と言っていた中1と小5の子どもを連れ出したこと自体が奇跡だったのですが、帰るときに『また参加したい』と言うのを聞いて、連れてきて良かったなあと思いました。」「Non-Borderボッチャ交流会で、ボッチャデビュー。想像以上に楽しくて、本当に本当に年齢・性別・障害・言語などの壁を感じることなく、楽しめました。」…等々。また、第一部優勝チームで職場の皆さんで参加された、チーム総司さんからは「ボッチャは幅広く対等にでき、オフィス内の会話も盛り上げられる。全国に広げていきたい。」という声をいただきました。

なお、運営にあたりましては豊島区スポーツ推進委員の皆様をはじめ、賞品を提供いただいた株式会社セノ一様など多くの方々にご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。第2回ももうご期待ください。



第2部 優勝チームの皆さん



新たな交流の数々



スポーツの未来を臨む「フィルターポーズ」での集合写真

8. リサイクルプロジェクト / スキンプロジェクト

サロン 2002 では、履き潰されたサッカーシューズや使えなくなったサッカーボールの「革」を活用して、コインケースやキーケース、サンダルなどを制作する「リサイクルプロジェクト/スキンプロジェクト」を実施しています。この活動は、サロン 2002 が事務局業務を受託しているユースサッカーリーグ「DUO リーグ」で、「巨大靴型トロフィー」を製作したことに端を発します。DUO リーグでは優勝チームでトロフィーを持ち回していましたが、2008 年にトロフィーを紛失するという出来事が発生しました。その際に、「「遊び心」を持った DUO リーグらしいトロフィーを製作しよう！」、「リーグに出場するサッカークラブ（主に高校サッカーチーム）の資源を活用しよう！」という発想から、リーグに出場する選手より履き潰された靴を回収し、現代アーティスト「KOSUGE1-16」と靴創作家「靴郎堂本店」の協力を得て製作したものが「履けなくなった靴でできた、履けるトロフィー」です。現在では、トロフィーには優勝チームのロゴが刻まれ、MVP や得点王の選手にはシューズの「革」から製作した靴型キー ホルダー（「巨大靴型トロフィー」のミニチュア版）が送られています。また、トロフィーを製作したこときっかけに、サッカーシューズやサッカーボールの「革」から新たな商品を製作するワークショップを各地で実施するようになりました。

2018 年度も DUO リーグ前期・後期優勝チームには「巨大靴型トロフィー」が贈呈されました。



9. SPORT FOR TOMORROW 事業への参加

SPORT FOR TOMORROW（以下、SFT）は、2020 年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京に招致する際、IOC 総会において安倍晋三首相が発表したことをきっかけに始まった日本政府が推進する国際協力・交流事業です。2014 年から 2020 年までの 7 年間で、開発途上国をはじめとする 100 カ国以上・1000 万人以上を対象としたあらゆる世代の人々にスポーツの価値を広げることを目指しています。サロン 2002 は、SFT のムーブメントを推進する官民連携のネットワーク「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム」に会員団体として加盟しています。そして、国籍や年齢・性別などが異なる人でも一緒に楽しくボールを蹴ることを目的にした「Non-Border Football」の実施や、外務省が主導するソマリア難民キャンプへのサッカー用具寄贈への協力、月例会での海外指導者との意見交換会開催などへの協力などを通じて、スポーツを通した国際協力・国際交流を行ってきました。2018 年度は、12 月に実施された「SFTC 会員交流会」にてサロン 2002 の活動を広く紹介した他、2 月には「Non-Border ボッチャ交流会」を開催し、海外の方ともスポーツを通して交流する機会を創出しました。「Non-Border ボッチャ交流会」の詳細については、報告をご覧ください。

10. 事務局報告

1. 2018 年度 NPO 法人サロン 2002 会員・スポーツネットサロンメンバー数

NPO 法人サロン 2002 会員数 33 名
スポーツネットサロン 2002 メンバー数 67 名

2. 2019 年度役員・事務局

理事長 中塚義実
副理事長 笹原勉、本多克己
理事 嶋崎雅規、関秀忠、竹中茂雄、松下徹
監事 茅野英一
事務局 岸卓巨、皆川宥子

3. 事業内容

	事業内容
通年	ネットワーク会員の募集、ホームページ・メーリングリストの運営、会員名簿の作成、ユースサッカーリーグ「DUO リーグ」からの業務受託
4月	4月月例会「高校サッカー百年をめぐって 一部活動のあり方を考える」
5月	5月月例会「ワールドカップのグループリーグからフェアネスを考える」
6月	2018 年度サロン 2002 総会・意見交換会
7月	7月月例会「セネガル料理を食べながら聞く FIFA ワールドカップロシア大会報告—ホットな現地の様子を生き生きと—」「テーピング＆リハビリ＆アジャリティトレーニング講習会」開催
8月	8月月例会「FIFA ワールドカップ討論会 一ロシア大会での事例をめぐってー」
9月	公開シンポジウム「部活動を語ろう！ 一高校サッカー百年を機にー」
10月	10月月例会「文京ラグビースクールにおける学び 一ラグビースクールが果たすべき役割ー」
11月	11月月例会「サッカーの戦術を構築する」
12月	12月月例会「忘年会兼お宝映像上映会」「SFTC 会員交流会」への参加 「クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2018」共催
1月	1月月例会「ボッチャ体験会&Non-Border ボッチャ交流会実行委員会」
2月	2月月例会「サロン 2002 からのメッセージ①ユース年代にリーグ戦を 一U-18 フットサルリーグ・チャンピオンズカップをめぐって」「第 1 回 Non-Border ボッチャ交流会」開催
3月	3月月例会「サロン 2002 からのメッセージ②オリンピズムを教育に 一大河ドラマ「いだてん」の背景とスポーツ庁オリパラ事業をめぐって」 広報誌「游 ASOBI」2019.4 第 2 号の発行、配布